

新聞新報

2008年(平成20年) 1月17日 木曜日

阪神大震災体験者 講師に

八王子市 防災研修向けに登録

きょう17日で阪神大震災から13年。八王子市は、市内在勤の阪神大震災体験者などに、講師として自主防災組織の研修などで体験談を話してもらう事業に取り組んでいる。市防災課は、大きな災害になるほど、行政はすべてには対応しづらくなる。体験談を聞き、家庭

の防災対策を進めてもらえ「たら」としている。また登録者は2人だけだが、市は体験者の募集を続けていく。

過去の規模大な災害の教訓を防災対策に生かそうと、同課が体験者の募集を始めたのは昨年3月。川崎市から八王子市に通勤して

いる笹田昌利さん(50)と、同市の養護学校教諭駒場敦子さん(49)が応募した。

笹田さんは1995年の大震災当日、兵庫県芦屋市の会社の寮で被災した。神戸市に実家がある駒場さんは、大震災を直接は体験していないが、同年3月に出産のため帰省し、全壊した

親族の家を目の当たりにした。2人は昨春秋、市と八王子消防署が主催した自主防災組織のリーダー養成のための「防災指導員育成研修」の講師を務め、駒場さんは避難場所となった養護学校を訪れた体験から、障害者のための非常食や非常トイレの重要性を指摘したという。

笹田さんは「実際に体験しないとわからない部分がある。食糧や水の備蓄は普及しているが、意外とタンクなどの家具の倒壊防止がされておらず、圧死された方がいる」と話している。2人は、今年も講師を引き受けるという。

同課は引き続き、市内在住・在勤の20歳以上の災害体験者を募集している。無報酬だが交通費は支給される。また、町内会の防災訓練などへの講師の派遣も受け付けている。問い合わせは同課(☎042・620・7207)へ。

中越沖地震被災の柏崎市

支援の自治体に感謝状

新潟県中越沖地震の発生からちょうど半年の16日、震度6強の揺れで大きな被害を受けた柏崎市の幹部職員が、災害支援を行った自治体に感謝状を手渡すため多摩地区の自治体などを訪れた。

00世帯が仮設住宅暮らしを続けており、品田局長は「(がれきの除去などで)見た目は震災当時よりも良くなったが、気持ちの復興はまだ緒についたばかり」と説明した。

品田局長は、17日には姉妹都市でもある東村山市などの訪問を予定、「支援していただいた他の自治体にも、震災1年後などをめどに訪問したい」としている。

町田、稲城、八王子市などを訪問したのは柏崎市の品田正樹カス水道局長。地震発生直後に職員を派遣して給水活動などを行った八王子市では、田中正美副市長

に対し「本当にありがたかった」と感謝状を手渡した。柏崎市では現在でも約9

対し「本当にありがたかった」と感謝状を手渡した。柏崎市では現在でも約9